20230122　　猪高の森自然観察会　2023 年 1 月報告書

猪高の森自然観察だより　１月号

開催日時:2023 年 1 月 22 日(日)　9:30～12:00
天候:晴　　気温:最低－0. 9℃、最高 9, 9℃(名古屋に於いて)
テーマ:冬越しする木や草・鳥と虫
参加者構成：一般 17 名（内 NACS－J 指導員 3 名、幼児（3 歳）1 名）
コース:森の集会所　→　塚ノ杁池堤体　→　井堀下池　→井堀の棚田　→こもれび池　→
　　シダレザクラの里　→　森の集会所

今年の冬は、記録的な暖かさが来たり、雪が降ったり変化が激しい年です。観察会の後、1 月 25 日付近には10年に1回といわれる大寒波がやってきました。生き物たちの世界でもいつものことが変わっているかもしれません。
それぞれの姿で冬越しをしている生き物たちを見つけてみましょう。

〇冬の暖かい日に飛んでいるガを見たら・・。

それはおそらく、**フユシャク**と呼ばれるガの仲間でしょう。
冬には花も少なく、探しても食べ物がありません。
この仲間は、口の部分が不完全で食べ物を摂取ができません。
天敵の少ない冬に羽化し、交尾をして、卵を産むためのみにこの時期に、姿を現します。また、メスは翅が未発達で飛ぶことが出来ません。
下見の時には発見できたのですが、観察会開催時には残念ながら、観察できませんでした。集会所横のトイレの壁によくオスが止まっています。
上の画像は「**シロオビフユシャク**」です。

〇虫たちの冬越しスタイルはいろいろです。
左は集会所の窓枠にいた**ナミテントウ**。下見のときにはいたのですが、本番時には不在でした。冬の最中でも移動するようです。右は、棚田のハンノキにいた**ヨコヅナサシガメ**の集団越冬。昨年と同じ場所です。隣の木に昨年は幼虫のサシガメがいたのですが、今年はみつかりませんでした。

左は棚田で見つけた**チョウセンカマキリ**の卵鞘、右は散策路の**オオカマキリ**の卵鞘です。カマキリの仲間はすべて卵で越冬します。

これは外来種の**ムネアカハラビロカマキ**リの卵鞘です。この種は在来種のハラビロカマキリを駆逐しつつあり、驚異となってしまいました。

中国から輸入された竹ぼうきの素材に卵鞘がついて、日本に侵入してきたとされています。灰白色と黒い筋が特徴で、枝などに少し斜めの向きに付いています。名東自然倶楽部では、見つけ次第取り除くことにしています。

〇最速の記録？！ニホンアカガエルが産卵を始めていました。

こもれび池にて 1 月 20 日の下見時に見つかりました。先週 14 日前後の降雨の後に、産卵されたものと思われます。

これから雨のあと毎に、産卵が続くでしょう。

産卵した親のカエルたちは、再び春あたたかくなるまで眠りにつきます。（「春眠」と呼ばれます。）

変温動物は気温が低いと動けないというのは、違っていますね。

〇ガマの穂の爆発は種を撒き散らすため！

棚田で参加者の方々に「**ガマの穂の爆発**」を体験してもらいました。

左のような状態の穂をちょっと触ると、真ん中のように「**爆発**」します。フワフワの細かい種が右のように撒き散らされます。

初めての方も多く、楽しんでいただけました。

〇さて、これは何でしょう？

棚田の東屋の柱の隙間で見つけた**ヤモリ**の卵です。

ヤモリは漢字だと「家守」、爬虫類の仲間で、陸上で生活します。夏の夜、電灯に集まる虫たちを捕食するために、窓ガラスの外側などに止まっています。

よく混同されるのがイモリ（井守）、水中で生活します。「家」は陸上でヤモリ、「井」は水でイモリと覚えましょう。

〇鳥たちは少なめでした。

冬は鳥たちの観察には、落葉樹ははを落とし、カモなどの渡り鳥たちが飛来するので、一番よい時期ですが、今年は、どの緑地でも、数が少ないようです。

左は**ウグイス**。今は「ホーホケキョ」のさえずりではなく、「ジュッジュッ」とか「ジャッジャッ」の地鳴きを藪の中でしています。

右は**アオゲラ**。これに出会えたらラッキーです。なかなか、見られません。「キョッキョッキョッ」と鳴きます。

左は**ダイサギ**（首の長い方）と**カイツブリ**。右は**カワウ**です。

昨年見られた**オオバン**は、この日はいませんでした。（別の日に確認されています。

塚ノ杁池で観察できます。

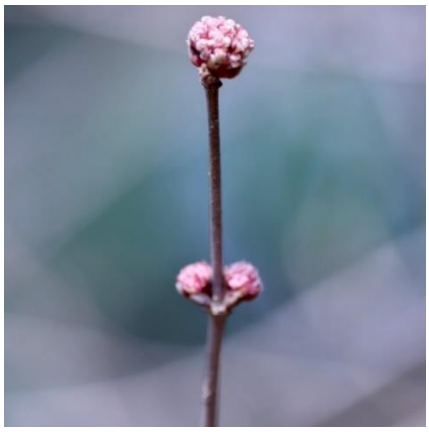
左はヤマハゼの実をついばむ**ジョウビタキのメス**、右は木の幹をつついて虫を探して捕食している**メジロ**です。

鳥たちとの出会いは「一期一会」。今日居ても明日居るとは限りません。

回数を多く見る機会を作ることが大切です。

○春の準備をする植物たち

秋遅くから冬にかけて、ドングリたちは、尖った方から根をグングン伸ばして水を吸い込みながら春を待ちます。
暖かくなると、根と同じ場所から茎を伸ばし、葉を広げます。



左は**ハンノキ**のつぼみ。長く垂れ下がっているのが、雄花、枝の根元で上を向いている小さいのが雌花です。（雌花が上にあるので「かかあ天下」と言う人もいます）
右はガマズミの仲間で一番早く咲く**ミヤマガマズミ**のつぼみ。

左は**キリ**のつぼみ。もうすぐ青紫色の美しい花がさきます。背が高い木ですが、ここでは観察しやすい場所にあります。
右は**ヒサカキ**の実とつぼみ。枝先に小さく点のように見えるのがつぼみです。

左は**アオキ**の枝先にある芽を縦に切ったところです。つぼみとその周りに葉が包むように、並んでいます。葉とつぼみを両方含んだ芽を混芽（こんが）と呼びます。
右は**シノブ**の胞子の塊が規則正しく並んでいるところ。棚田のハンノキの幹で見つけました。

〇マンリョウと葉粒菌（ようりゅうきん）の関係とは？

お正月の鉢植えや冬に庭を彩る樹として知られているマンリョウ（万両）。

この樹にも謎があります。

根につく「根粒菌」はマメの仲間によくみられる細菌として有名ですが、マンリョウの葉のふちっこにあるギザギザになったちょっと厚ぼったい部分にも細菌が住んでいます。これが葉粒菌と呼ばれる仲間です。

この葉粒菌、以前は根粒菌と同様に「空中窒素固定をし、栄養としてマンリョウに与えている」と考えられていたのですが、最近の研究でそのような事はしていないことがわかりました。でも、人工的にこの菌を除いてマンリョウを育てると上手く育ちません。「必要だけど、何をやっているか分からない」のが今の状況です。詳しくは

https://hamamatsu-sci-museum.note.jp/n/n1fbb3083a9a8

に載っていますので、見てください。「空中窒素固定」についても、分かりやすく解説があります。まだまだ、謎多き世界です。

〇よく弾む小さなボール？

目の覚めるような瑠璃色の実。

ジャノヒゲ（リュウノヒゲ）の実です。小さい頃に空気鉄砲の玉として遊んだ方も見えるでしょう。

この草は、漢方では「麦門冬（ばくもんどう）」と呼ばれ、根を利用するそうで、鎮咳、止渇、去痰などの作用があるとのことです。

実は「実」と言いましたが、薄い皮の下に大きな白い種が一粒入っており、**ジャノヒゲ**の**「種」そのものです。**よく弾むので、そのままでも遊び道具になります。

☆1月９日にイベント「カブトムシのお宿」を開催！

「カブトムシのお宿」とは画像右下にある竹で囲った落ち葉入れのこと。毎年沢山のカブトムシが育っています。

小学生たちが、ここにカブトムシの幼虫の餌になる落ち葉を積み上げます。中にいる大きい幼虫の観察もします。初めて触る子どもたちもいて、おっかなびっくりです。

でも、一番楽しかったのは、積んだ落ち葉の上で飛び跳ねる「落ち葉トランポリン」だったようです。

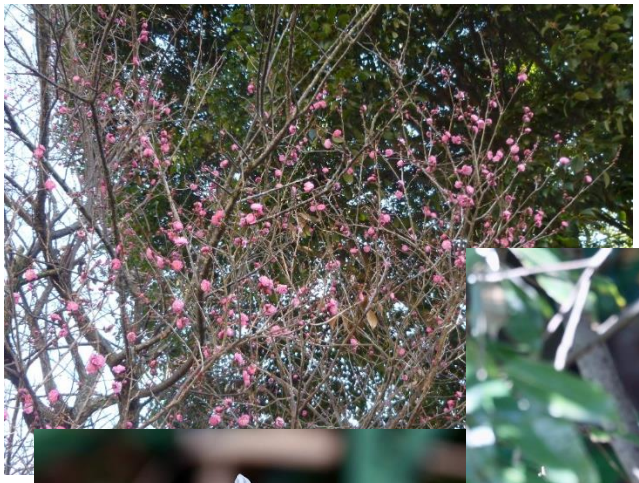
☆ヨーロッパナラの保全を行いました

アーチェリー場西の**ヨーロッパナラ**は植樹された樹ですが、この猪高の森に1本しかありません。独特な形の葉と特徴のある大きいドングリで、観察会時の大事な役者のひとつです。

でも、最近は元気がなく、昨年はほとんど実がならなくなっていました。

今回は、周りの混み合っているキンモクセイを切って、復活させる試みで、1月11日に行いました。画像は根元を整理した姿です。

元気を取り戻してくれればと、祈っています。



春はもうすぐ！

左は、1月 20 日に咲いていたアーチェリー場横の紅梅、中はメスを待ちどうしそうにしているモズのオス、下は寒咲きのニホンズイセンです。

今が一番寒い時期、2月の中を過ぎれば、暖かくなってきます。

次回観察会は　2月 26 日（日）

森の集会所集合　9:30～　　です。

左は、棚田でのガマの穂の観察風景です。
楽しく観察会に参加しませんか？

昨年の1月号もご覧ください。
http://sizen.ciao.jp/observation/20220123itaka.pdf